

# 生き残りをかけた世界

## 生き残るための知恵と工夫

人間がご飯を食べるのと同じように、生き物は他の生き物を食べることで生命をつないでいる。生き物の食事には、食うか食われるかの生き残りがかかっている。

生き残るために、生き物たちはさまざまな知恵と工夫を使っている。ここでは、身近な生き物の代表であるこん虫をみてみよう。

カマキリの前あしは食べ物となるこん虫をつかまえるのにとても便利だ。



ナナフシは鳥などの天敵に見つからないように木の枝そっくりだ。

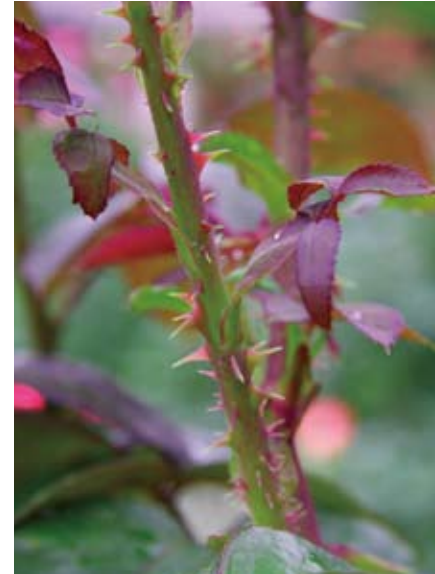
カメムシは強烈なにおいを出して敵から身の守るぞ。これも生き残るための技だ。



こん虫は小さいながらも、いろんな特技や能力をもっている。こん虫は種類も多いし知れば知るほどおもしろいぞ。



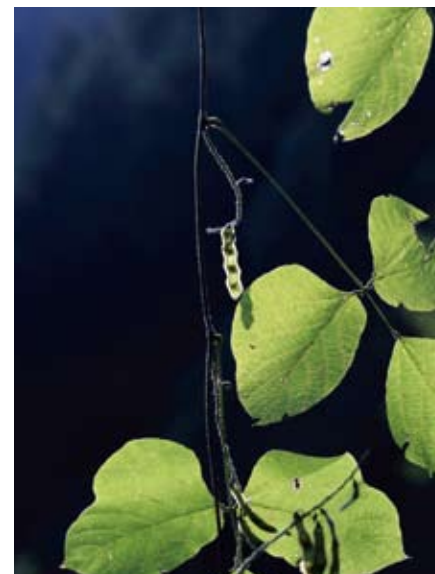
植物も身近な生き物の代表だ。生き残りをかけた世界は植物にもある。子孫を残すため、自分たちの生えている場所を広げるため、様々な方法を使って生き残ろうとしている。



ノイバラはトゲが生えていて、さわると痛い。これは葉を食べる動物から身を守るためなんだ。



ひっつきむし(オナモミ)は動物に種をひっつけて遠くに運んでもらう。広い範囲で子孫が生き残るようにね。



日当たりのよい場所をめぐって、植物の世界では場所取り合戦がよく起こる。クズは場所取り名人だ。つるをどんどん伸ばして他の植物をおおってしまうぞ。

生き物の世界はすごいな。食べるため、生き残るため、子孫を残すため、みんな一生懸命生きているんだね。

